

アメリカの心理学者 B.S.ブルームは学力の到達基準を規定するため、学校教育の目標領域を認知・情意・精神運動の 3 領域に分類し教育目標分類学を作成した。その中で教育活動の対象となる認知領域を 6 つのレベルに分類した。この教育目標の分類は、教育単元や学科の学習レベルの決定に活用することができる。

教育目標分類学の認知領域のレベル分けをもとに、高知工科大学で実施した多選択式運動概念調査の設問を認知レベルで分類した。多選択式の調査のため、測定できる認知レベルは応用レベルの Apply までとなる。認知レベルは認知領域下位 3 領域を参考に、下位レベルから Remember（記憶：長期記憶からの関連知識の想起）、Understand（理解：知識の活用・例示・比較・言い換え・一般化）、Apply（応用：適切な知識の選択・既得知識による解答の創造）と定義した。

認知レベルと調査の回答率の関係について、認知レベル別の正答率・最多誤回答率、回答の分散の観点から分析した。Apply は複数の概念を要するため回答が比較的分散し、一方 Remember は強力な誤概念選択肢と正答選択肢に回答が 2 極化する傾向にあった。この結果より、被験者の概念測定には Remember（記憶）の問題が最も適していると言える。

